

第  
06  
号

二〇一七年  
一二月

# 月報書生閑話

monthly newsletter shosei kanwa 第六号 本郷版 2017.12

年の瀬を感じた、  
ある日曜日



東京で、しかもご近所で餅つきができるなんて、これはまたとないチャンス！小学生ぶりの餅つきにワクワクしながら、上真砂町会の歳末餅つき大会に向かいました。

朝、天ぷら屋さんの扉を開けると、すでにせっせと準備を始めている皆さん。緑のジャンパーに赤のエプロンをつけていたので、あくクリスマスだ！と思っていたら、これは町会カラーダよと教えてもらいました（笑）。

ド迫力でお餅をつく男性陣、熱々のお餅をあつという間に小分けにする器用な女性陣。どちらも本当にカッコよくて、見入ってしまいます。まさに冬の一大風物詩。高校時代ハンドボール部だった私ならできるんじゃないかと、軽い気持ちで杵を手に取りましたが、白に収まるように降り落とすので精一杯。「振り下ろすことよりも、振り上げることに意識を置くんだよ。あとは重力を使うんだよ。」と教えてもらいました。

夏のお祭りも好きですが、私は寒い中であつたかいものを求めて屋台に並ぶ感じとか、ぎゅっとひしめき合って食べることに幸福を感じます。つきただのお餅、焼き鳥、そしておでん。続々と集まつくるお客様の顔も笑顔に。

本郷に引っ越して來ていろんな出会いに恵まれたこの一年、よくしてくださった本郷の皆さんにはただただ感謝の気持ちでいっぱいです。来年も笑顔の溢れる一年になりますように。（馬）

書生生活の一年の活動をお伝えする報告会を二〇一八年二月一八日に鳳明館本館で行います。詳細はHPやfacebookでお伝えします。<http://shosei.tokyo>

本郷の街は書生生活を応援しています。一緒に書生を応援してくださる大家さん、不動産屋さんなどを大募集。ご連絡は左記よりどうぞ。

[mating-hongo@nifty.com](mailto:mating-hongo@nifty.com)

## 書生のまち活動日誌

# 「大学院生による研究発表、定例会にて」

私たち書生の多くは大学院生で構成されています。異なる研究科、専攻、研究室で日々が日々研究に取り組んでいます。実はこのよう異なる研究分野の人との交流というのは多くは行われておりません。せっかくのこのようないいミユニティを有効活用しようということで、「書生同士で研究発表して、意見交換したら面白いこと起るんじゃね?」という意見が飛び出し、隔週月曜日に行われている定例会にて、研究発表を開催することになりました。

街 ing 本郷の会員には大学院生でない方も多くいらっしゃるため、ゼミでの研究発表よりも分かりやすい発表が求められます。また会員は大学院生その他間わず積極的な人が多く、自分の知らないことでもしつかりと質問や指摘を行って、非常に有意義な時間になっています。本記事の担当の書生下嶋は発表の質疑応答の時間に、書生上島から、「データが階層的な構造を持つときは、回帰線を一本引くだけでなく、階層線形モデルを……」と鋭い指摘をいただきました(笑)。研究活動は非常に視野が狭くなりやすく、自分の研究分野で使われている研究手法にとらわれてしまふこともしばしばで、違う視点で指摘してもらえる機会は

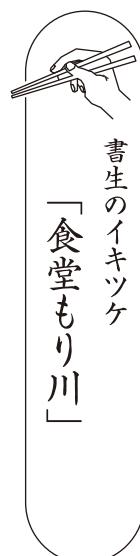
あります。実はこのよう異なる研究分野の人との交流というのは多くは行われておりません。せっかくのこのようないいミユニティを有効活用しようということで、「書生同士で研究発表して、意見交換したら面白いこと起るんじゃね?」といいうことで、意見交換したことになりました。

あまりないんですよね。そういう意味でもいい機会だったなあと思います。この企画のおかげで研究をさらにいいものにすることができそうです。僕も上島君のように鋭い指摘をすばすばして、他の人の研究の手助けになりたいなと思っています。(下)



## 書生コラム 英語とプレイ。

坪内逍遙の当世書生気質などを見ると、当時の書生・学生が使っていたらしくたくさん略語・通語に出くわします。遊郭に行くことを表す「プレイ」(現代人としては非常に直接的に感じて赤面しますが……)だったり、prostitute(売春婦)の略「プロ」で娼妓を表したり。こうした新しい言葉の大体はそういう「遊び」関連の用語なので、当時の学生が如何に勉学以外のこと現を抜かしていたのかよく分かるわけですが、何より、そういう事柄に外来語を使って、ちょっと気取つて表現していることが随分と鼻につきます。なにせ、吉原を「グウド・ブレイン=good(吉 plain(原))と言つて居るのですから……。



### 「食堂もり川」

今月は本郷の老舗定食屋である「食堂もり川」を紹介する。本郷通りから郵便局の角を曲がると赤字の看板が見えてくる。「東大生と共に明治から」との言葉通り、明治時代創業の歴史ある店である。

私は知人が初めて本郷を訪れる際、必ずこの店を案内する。メニューが豊富なだけでなく、どの料理も評判が良いからだ。柏にあるキヤンバスの友人が遊びに来た時や実家から兄が訪ねて来た時、夕食にもり川を訪れた。皆この店を気に入り、楽しい時間を過ごすことが出来た。

へと比べてみると、きっとはるかに英語力があつたんだろうな。

それだけではなく、日常会話の最中にシェイクスピアの「ハムレット」を引用したり、いわゆる「教養」に溢れて居る書生の姿が、小説集には描かれています。本当にこんな学生がいたのか本当のところはわかりませんが、未来が明るかつた当時のエリート層としての書生の姿が垣間見得て来ます。

そんな彼らが、実は「プレイ」をして遊んでいて、しかも得意なはずの英語を使って隠語を作つていたらしい。何のために英語を勉強しているんだ、と言いたくなますが、学生時代というのは誰でもそんなものでしょうか。今度は実際、明治・大正の書生たちがどんな言葉づかいで会話をしていたのか、聞いてみたいものです。(三)



食堂もり川  
住所：東京都文京区本郷 5-30-16  
営業時間：月～金 11:00-14:00、17:00-21:00  
土 11:00-14:00、17:00-20:30、日曜定休日

今回は特選「上」編ほつけ定食を注文し、丸一匹分のほつけでお腹一杯になった。店長によると、近年漁獲量が減り魚の仕入れに苦労するそうだ。しかし常連さんの期待に応えるため質や量を落とすつもりは無いのだと、店長は静かに、熱く語つて下さった。

本郷を見守る食堂として、もり川にこれからも頑張つてもらいたい。(西)

**のぞきみ・書生生活**

FILE 6 : 伝統継承

みのる荘二階の一〇号室は一見何の特徴もない普通の部屋である。家具を残すという伝統である。冷蔵庫、電子レンジ、コンビーメーカー、電気ケトル、こたつ、本棚など多くの家具たちが前住人たちから受け継がれてきた。現住人も伝統を継承すべく、何を残して飛び立っていくか検討中である。年々増えていく家具たちに乞うご期待。(下)